論　説

獣医師会組織基盤の強化に向けた地方獣医師会の取組

―神奈川県獣医師会を事例として―

鳥海　弘†（(公社)日本獣医師会副会長
(公社)神奈川県獣医師会会長）

はじめに

現在，日本獣医師会は，55地方獣医師会で構成されているが当方が会長を務める(公社)神奈川県獣医師会（以下,「本会」という.）をはじめ多くの地方獣医師会では，会員数（日本獣医師会でいう構成獣医師）が減少あるいは増加できない事態に悩んでいるのが現状である.

地方獣医師会の会員数は，日本獣医師会の構成獣医師数になり，ピークは2010年3月の27,585名であったが，本年度（2024年3月）は23,869名となり，この14年間で3,716名減少した．おおむね5年ごとの構成獣医師数の推移をみると特にここ5年間の減少が激しく（図1)，世代別の推移をみると35歳以下の若い世代の会員数減少とともに，36歳から50歳までの中堅獣医師の会員数の減少が顕著である（図2).

毎年約1,000名の新人獣医師が誕生しているが，獣医師会の会員数は増加するどころか減少している現況について，国内の飼育動物数や家畜の飼養頭数の減少とともに憂慮すべき大きな問題である．日本獣医師会の会員制度の仕組みから考えると，構成獣医師数の増加には地方獣医師会の努力に委ねるしかないが，このままでは獣医師会は若い獣医師から見て，魅力のない団体と化すことは明らかであろう.

その理由はどこにあるのか，端的にいえば獣医師会員にとって，会費に見合うメリットを提供できないからでなかろうか．メリットには有形，無形があるが，若い獣医師にとっては有形のメリットを求める傾向が強いと思われる．獣医師会に入会すれば，これらのメリットを体現として認識できるが，そのメリットを知ることなく入会しない獣医師が増加していることが，最も大きな問題である．以前は学術情報等を得るために入会する事例が多かったが，今ではインターネットで国内はもとより海外の学会誌などの学術情報は無料で簡単に入手できる時代となった．獣医師会は獣医師が会費を払ってでも入会したくなるメリットをどう構築するかが課題となる.

どこの地方獣医師会でも公務員の入会率は高く会員に占める割合が高いが，定年退職と同時に退会する事例が多いことは問題であろう．地方獣医師会の中には，職域に係らず，そもそも若い獣医師が地域に就職してくれなくて困っている例もあると聞くが，手をこまねいていてはいけないので，全国の獣医師会が意識の共有を図らなくてはならないと考える．全国の地方獣医師会それぞれが，魅力ある会の運営に向けて考えなくてはならない時代になってきたことは確かである.

そこで，獣医師会組織の基盤整備に向けた本会の取組の一端を紹介し，ご批判をいただくことにしたい.

神奈川県獣医師会の会員区分

本会の会員区分は，正会員（甲，乙）と賛助会員（主として企業，学生）からなるが，甲会員は飼育動物診療施設開設獣医師であり，乙会員は勤務獣医師であり，公務員や農業共済または大学教員や企業診療施等に勤務す

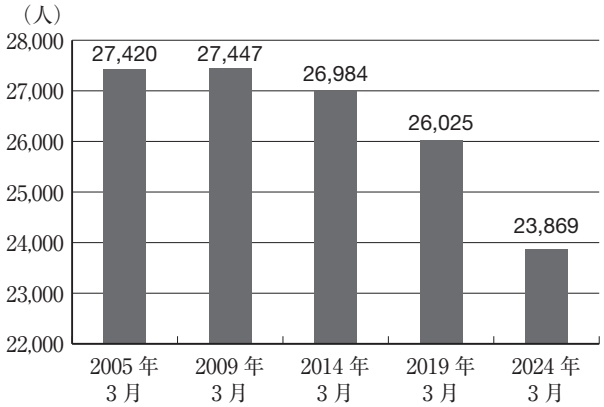
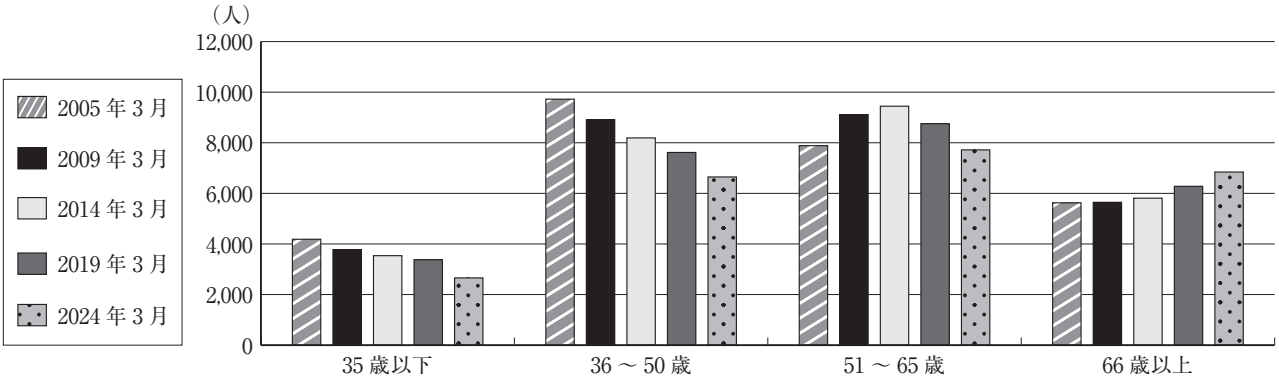


図1　日本獣医師会会員構成獣医師数の推移（人）
＊全体統計データを取り始めた2004年度以降の推移

† 連絡責任者：鳥海　弘（(公社)神奈川県獣医師会）
〒251-0024　藤沢市鵠沼橋1-16-14　ヤマキビル3-A　☎0466-86-5077　FAX 0466-86-5078
E-mail : KVA@kanagawavet.or.jp



年・月	35 歳以下	36～50 歳	51～65 歳	66 歳以上
2005 年 3 月	4,186	9,724	7,885	5,625
2009 年 3 月	3,777	8,908	9,115	5,647
2014 年 3 月	3,536	8,192	9,446	5,810
2019 年 3 月	3,376	7,617	8,753	6,279
2024 年 3 月	2,658	6,649	7,719	6,843

図 2　世代別会員構成獣医師数の推移（人）

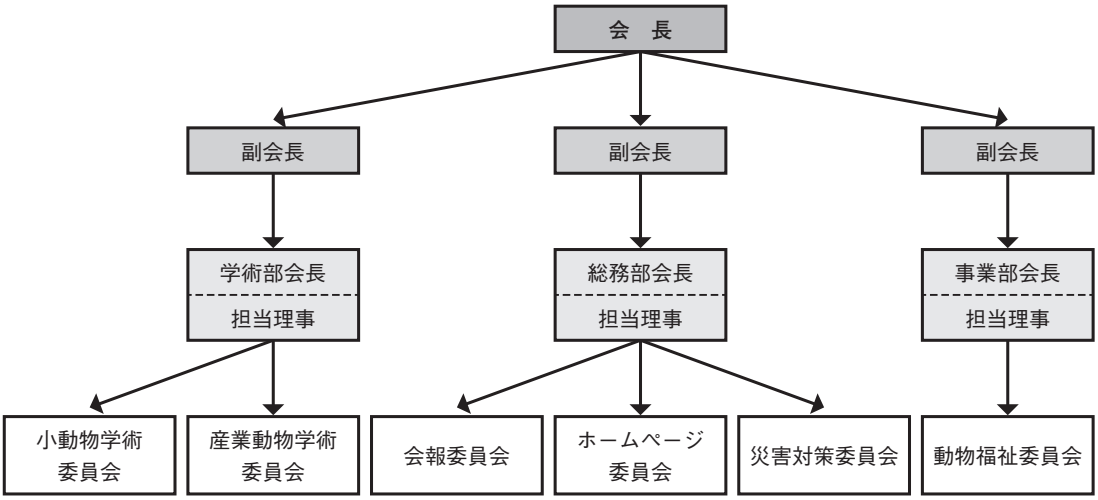


図 3　神奈川県獣医師会組織図（R6.4.1 現在）

る獣医師で構成されている．本会の会員数も平成 22 年 3 月末をピークに減少傾向にある．甲会員は高齢等で退会するが新入会員が少ないのが現状である．

本会事務局は，3 名の職員が常勤し，事務所は藤沢市の民間の賃貸事務所である．会費収入と県の委託事業収入以外の財源はなく，限られた予算の中で事業を行っている．甲会員会費は 67,000 円（日本獣医師会費 6,000 円含む），乙会員会費は 10,000 円（日本獣医師会費 6,000 円含む）であり，これを原資として運営している．

本会の組織構成

本会の組織の特長は，上意下達のトップダウンではなく，広く会員の声に耳を傾け運営されていることである．事実，会員からはメールや LINE 等を用いて役員やホームページ委員会宛てに多くの意見や要望が寄せられる．本会組織は，理事会，支部長会議，3 部会制，6 つの各委員会で構成されている（図 3）．

理事会：理事は立候補制で，多くの会員が組織に関心を持っており，改選時は定数を超える立候補者がある．公益法人認定時の理事定数は 18 名であったが，定款改正をして令和 3 年の定期総会の役員改選時から 10 ～ 13 名としたことでコンパクトで機能性の高い理事会となり，自由で闊達な意見交換が行われている．監事は 2 名，その他にコンサルタント，顧問税理士，顧問弁護士を委嘱している．女性獣医師の声が獣医師会活動に反映されやすいように，女性役員を増やす目標に向けた取組を推進しており，現在女性理事は 1 名であるが各委員会には 11 名の女性会員が所属しており，活発な活動が

なされている．

支部長会議：理事会とは別に，9つの開業支部（西湘，中央，厚木愛甲，相模原，相模，藤沢，茅ヶ崎寒川，湘南，横須賀三浦），2つの公務員支部（畜産，衛生），農業共済支部，2つの大学支部（麻布大学，日本大学）及び，これらの支部に属さない「やまゆり支部」を設け，各支部での意見の集約や，理事会とは別に支部長会議として意見を出し合う組織を持ち，そこで集約された意見を理事会に反映する仕組みで運営されている．

部会・委員会：3つの部会（総務，事業，学術）を設けて，3名の副会長が統括し，全理事が3部会のどこかに所属し，理事の中から部会長を選任したうえで，6つの委員会（小動物学術，産業動物学術，会報，ホームページ，災害対策，動物福祉）を設置している．特に若い会員や女性会員が委員として県獣に関わり，参画できる環境を維持している（図4）．

本会の意識改革

県獣医師会の理事会や会議等の出席時には，出席者は全員が県獣医師会バッジ（図5）を付けて出席するという伝統があり，仲間であることを強く意識している．

以前は組織運営に対して，狂犬病予防注射事業収益に依存していた傾向があったが，公益社団法人化後はこれに頼らず，自らの会費で運営する組織となっている．

したがって経費は極力節約し会議等の後に懇親会を開催する場合は，賀詞交歓会と定時総会を除き，全て実費を徴収し，会議等の際の飲料も各自持ち込みとして節約して運営している．

図4　神奈川県獣医師会総会の様子

本会の基本姿勢，予算は少なくても アイデア次第でできることは沢山ある

獣医師会ホームページの活用：ホームページは，どの地方会も活用していることであるが，各種情報を迅速に会員へ連絡するため，メールマガジンをホームページ委員会が担当し，毎月1日と15日に2回配信しており，現在，通算No. 457号（2024.7.1）となった．この配信は，おそらく全国でも希有の例ではなかろうか．内容も県獣，日獣関連のみならず，ネットで見かけたトピックスやジョーク，各大学の同窓会や同好会の情報，その他の情報が配信されている．また，毎年正月には「お年玉大抽選会」と銘うって，県獣医師会長賞や各企業から寄せられた多くの商品やグッズの抽選会を行っている．毎年多くの会員からメールにてホームページ委員会宛てに応募し県獣医師会に対する要望等のコメントを頂戴している．堅苦しいだけのメルマガではなく，広く会員に興味を持ってもらう工夫しており多くの会員読者に愛されている．毎号のメルマガのジョーク集には思わず笑いが吹き出しそうなものが多く，心が和むコーナーである．また行事予定では，どのような会議や事業が開催されているか確認ができて大変便利なツールとなっている．

会報を年6回，隔月で発行（図6）：以前は本会会報を毎月刊行していたが，平成24年5月号（549号）からフルカラー版にして奇数月の隔月に発行し，会員に直近の情報を届けている．紙面は全て会報委員会が編集し，発刊回数は通算622号（2024.7）になった．会報はフルカラー版にしてから，写真を多く取り入れ，会員が興味を持ち読みやすくなっている．表紙には会員が撮影し

図5　神奈川県獣医師会バッジ

図6　神奈川県獣医師会会報

た写真及び会員が美術展等に出品した絵画等が掲載され，会員の思わぬ才能の一面を伺わせている．内容は賀詞交歓会，総会，理事会，福利厚生事業，学術大会，支部長会議や委員会等の各種報告，麻布大学及び日本大学の研究室等の活動紹介，新入会員紹介，そして各支部の活動紹介，行事予定，あとがき等で構成されていて，非常に読みやすい紙面であり，本会会員から好評を得ている．委員会の先生方には感謝の気持ちで一杯である．

大学との連携：県内には幸いなことに獣医学科を有する麻布大学及び日本大学が存在し，本会と緊密に連携していることは，本会の運営上きわめて有益である．

両大学の年間卒業生は合計200余名であり，学生時代から獣医師会との関わりを感じてもらっている．当方は獣医師会長として日本大学の学位記等伝達式や開講式（入学式）へ出席し，日本獣医師会会長賞の代理授与並びに校友会長賞を授与し，学生に祝辞と挨拶の中で獣医師として社会に出たら組織に加入（獣医師会，校友会等）して社会貢献をしてほしい旨の祝辞を強調している．また当方は開業獣医師の傍ら日本大学で16年間の非常勤講師を務め，講義の中では機会があるごとに獣医師会や校友会への入会とその活動の重要性を伝えてきた．

獣医界には，現在，獣医療コンサルタントが存在し，動物病院の新規開設やその後の運営についてアドバイスをする業者がいる．なかには「獣医師会は会費負担や時間的拘束等が多いので獣医師会には入会しない方がよいですよ…」と説くコンサルタントもいることは事実であるが，これをいかに若い獣医学生に獣医師会の魅力を説くかを重視して大学で話をしている．新人獣医師に卒業直後に組織に加入していただくことが重要であると推奨しており，大学の先生方には学生たちに卒業後は獣医師会や校友会等に入会を勧めるようお話をいただきたい．

福利厚生事業（図7）：本会では福利厚生事業として会員だけでなく，家族，病院や職場のスタッフなども参加していただけるイベントを毎年企画し，多くの会員や関係者等が親睦を深めている．またゴルフ同好会，テニス同好会，バイク同好会など，共通の趣味を持つ会員同士で親睦を深めていて，これらの行事や企画を通して獣医師会の活動の重要性及び相互協力を期待している．

賀詞交歓会の開催（図8）：毎年1月に，本会主催の賀詞交歓会を開催しており会員，来賓を含めて120名以上の参加がある．来賓として議員の出席依頼は県議会議長の1名のみとしており，賀詞交歓会の主体は，会員，賛助会員，関係団体，関連企業，両大学の学長・学部長等が参加し交流を深めることが慣習となっている．

総会後の懇親会：定期総会には多くの会員が出席するが，総会やその後の懇親会の席で，功労賞，功績賞，学術賞，米寿，喜寿等の会員表彰をすることで，長年在籍したことの利点を実感していただき，また高齢の会員は本会会費を減免している．

県との獣医療連携事業の推進：2019年6月にオープンした県動物愛護センターでは命を生かす施設へと変革し，県獣医師会の協力により獣医療連携が行われている．保護された動物の健康維持等を目的とし，愛護センターで対応が困難な症例等について，神奈川県獣医師会の会員獣医師が，定期的に愛護センターを訪問し，診断，治療，管理助言等を行い，同センター内での対応が困難な重症症例に対しては，県獣医師会員病院への移送・治療が行われている．また県内で発生した多頭飼育崩壊や飼い主のいない猫の不妊・去勢手術を実施しており，多くの会員獣医師が協力している．これらのことで獣医師会と行政との密接な関係が構築されており，公務員獣医師の県獣医師会への入会促進にも繋がっている．

学術大会の開催

会員が獣医師会事業の中で最も関心を持つのは学術事業である．本会は公益社団法人となった平成25年度に，学術事業を充実する目的で「神奈川県獣医師会学術大会」の開催を始めた．小動物，産業動物，獣医公衆衛生の3分野であり学会形式の形をとっている．この大会で優秀な演題を関東・東京合同地区獣医師会の地区三学会

図7　福利厚生事業で江の島を眺めながらのバーベキュー

図8　賀詞交歓会

に推薦する仕組みである．今年3月には11回目の学術大会を開催した（図9）．

本学術大会には毎回100～120名以上の会員参加があり，特に若い会員が最も参加が多く，非常に活発で会場内は活気で溢れている．発表の内容や形式は非常にスマートであり，学生時代に学内外で発表してきた経験が伺えられる．当日の発表演題は時間の都合で28演題前後であるが，演題募集をかけるとすぐに演題応募があり枠が埋まる状況である．会員以外には2大学支部からの研修医や学生の演題申し込みや参加もある．審査は両大学の教員や会員が担当している．当日の準備には，学術委員や有志の会員が朝早い集合時間には30名以上が自主的に参加し，準備を分担しているが，見ていて本当に頼もしい限りである．会員が自分たちで学術大会を活性化しようという意気込みが見て取れる．

特に学術大会や県獣医師会主催の卒後教育セミナー開催等の終了後には交流会が企画され，多くの若い会員が交流を深め，学術だけにとらわれない多くの関連情報を得ている.この学術大会開催の意義は学術活動の枠を超えて会員意識の増強や親睦にも大きな役割を果たしている．

本会はこの10年間で関東・東京合同地区獣医師会大会を2回，日本獣医師会獣医学術学会年次大会を平成30年度に開催した．地方会が日本獣医師会の年次大会を開催したのは神奈川県獣医師会が最後となったが，開催決定の可否に対しては多くの理事や役員から開催受託を賛同されたことが，受託判断の大きな要因となったのは事実である．このように何事についても県獣医師会の理念や目的に賛同してくれる会員や賛助会員が多い．

学術部会ではその他に年2回の卒後教育セミナーや企業とのタイアップによる最新知見を共有するセミナー等も企画，開催しており本会会員だけでなく全国に広く周知し，本会会員以外の多くの日獣構成員，動物看護師等もオンラインで参加できる．また本会と県医師会との合同によるワンヘルスセミナーを毎年県医師会と本会とが持ち回りで開催している．

図9　学術大会の開催

終　わ　り　に

以上が，神奈川県獣医師会が取り組んでいる事例の一部である．われわれ県獣医師会員にとっては普通の事例であると認識しているが，会員の意識改革により一致団結した成熟した獣医師会へと変革してきた．特に獣医師会運営は狂犬病予防注射事業収入に依存しない，組織運営をする時期になってきた．

また若い新鮮な感覚と行動力を持った若い会員をいかに増やすか，活躍しやすい環境を作るかが組織活性化の要因となる．そうすれば，現在の本会のように執行部や理事会は方向性を示すだけで，獣医師会の運営が廻るようになる．特に毎年，誕生する獣医師の半数以上は女性であり，女性獣医師の声が獣医師会活動に反映されやすいように，女性役員を増やす目標に向けた取組を推進することも必要である．これらは獣医師会に限らず，全ての組織にも当てはまることである．

日本獣医師会に目を向けてみると，現在の55会員の地方会が独自の運営を行っているが，今後は大規模災害の発生等が危惧されるなかで，通常事業のほかに55の地方獣医師会の枠を超えて，連携を強化した活動が必要になると考える．地方獣医師会単位ではなく拡大・連携した地区単位での活動が求められることがあるだろう．地方獣医師会を大きな組織にして活動することにはメリットも多い．また日本医師会のように直接会員制の導入を検討する時代を迎えているのかもしれない．結論ありきではなく，構成会員一人ひとりが組織的にメリットを体現し，時代の変化にあわせた組織の持続的発展を検討する時期を迎えていることを認識すべきである．

もちろん，現状の仕組みを変更することは容易ではないであろう．現在の会員構成獣医師にとって最も身近で，最初に入会する支部の中で入会し難い状況，入会金や会費，既存のルール等により新規入会が拒まれていないか，入会を躊躇させるような慣習が残っていないかを確認し，悪しき慣習は廃止すべきでないだろうか．本会が実施している会報，メールマガジン等を用いた活動の発信が必要であり，また動物フェスティバル（図10），市民公開講座等を開催し支部や地域獣医師会を通じて，地域とのつながりを強化し公益法人としての社会貢献が必要不可欠となる．また会員増強のために本会が行ってきた入会候補者情報の収集と入会案内の送付や非会員への学術大会，講習会への参加，会報の送付等を通じて会員と非会員との交流が地道ではあるが必要である．

また臨床獣医師の中には，博士号の学位を取得したいが，そのためには時間や費用が掛かり困難であるので，専門医や認定医の資格を取得したいという若い獣医師が多いのも現状である．本年4月に獣医療法の一部改正が施行されたのに伴い，日本獣医師会が認定・専門獣医師制度を構築できれば，若手の獣医師や探求心旺盛な獣医

師の入会が促進されることに繋がる可能性がある．会員増強のためには全国の地方獣医師会それぞれが魅力ある会の運営に向けて考える必要がある．地方獣医師会の中には，職域に係らず，そもそも若い獣医師が地域に就職してくれなくて困っている例もあると聞くが，そのためにはまず獣医師の処遇改善をして魅力ある職場環境を構築しなければならない．手をこまねいていてはいけないという意識の共有を図らなくてはいけない．

さらに現在の獣医学系17大学の学生の構成を見ると，6割以上が女性とのことである．大学卒業時の獣医師会への入会率が男性と比べ著しく低いとされる女性獣医師が入会し活躍しやすい環境づくりが必要になる．

以上のようにいろいろと述べたが，獣医師及びその組織である獣医師会の発展には，地方獣医師会がまず活性化し，日本獣医師会の発展に繋がる活動を推進することを大いに期待したい．

図10　動物フェスティバル神奈川